

山形県最上川から得られたウケクチウグイ

酒井治己¹・桂 和彦²・小野沢茂好³

¹759-65 下関市永田本町 2-7-1 水産大学校

²992 米沢市泉町 1-4-12 山形県内水面水産試験場

³999-02 山形県東置賜郡川西町州島 2300

A Record of "Ukekuchi-ugui," *Tribolodon* sp.,
from the Mogami River, Yamagata Prefecture

Harumi Sakai¹, Kazuhiko Katsura²
and Shigeyoshi Onozawa³

¹Shimonoseki University of Fisheries, 2-7-1,
Nagata-honmachi, Shimonoseki
759-65, Japan

²Yamagata Prefectural Inlandwater Fisheries
Experimental Station, 1-4-12, Izumi-cho,
Yonezawa 992, Japan

³Sunoshima 2300, Kawanishi-cho,
Higashi-okitamagun, Yamagata
Pref. 999-02, Japan

A specimen of an undescribed cyprinid fish "ukekuchi-ugui", *Tribolodon* sp., was collected from the Mogami River which flows into the Sea of Japan. This species has only been reported from the Shinano and Agano Rivers, with the exception of a print based on a fish collected from the Mogami River in 1872. Therefore, the present specimen is the first authentic record of this species obtained from another locality.

コイ科ウグイ属魚類の一種ウケクチウグイ *Tribolodon* sp. 1 尾が山形県東置賜郡川西町の最上川上流域で採集された。本種は、まだ正式な記載発表はされていないが、下顎前端が上顎前端より前方に突出していることにより、同属の他種と区別されている(中村, 1963, 1969)。正式な記録としては、信濃川、阿賀野川両水系からの報告しかない(中村, 1963, 1969; 本間, 1976; 小野寺・本

Table 1. Counts and proportional dimensions of "ukekuchi-ugui", *Tribolodon* sp., from the Mogami River (present study) and the Agano River (Nakamura, 1969; Kurawaka, 1977).

	Mogami River	Agano River
Number of specimens	1	3
Lateral line scales	86	85-93
Predorsal scales	49	44-47
Principal dorsal rays	8	8
Principal anal rays	9	8 or 9
Principal pectoral rays	18	—
Principal pelvic rays	11	—
Principal caudal rays	10 + 10	—
Vertebrae lacking Weberian apparatus	44	—
Number of pores		
Infraorbital canal and postocular commisure	23	25-28
Supraorbital canal	17	15-19
Preoperculo-mandibular canal	25	20-24
Supratemporal canal	11	10 or 11
% of standard length		
Head length	27.3	27.8-29.4
Body depth	22.5	16.7-20.8
Caudal peduncle depth	10.0	8.5-9.7
% of head length		
Snout length	30.4	30.3-33.3
Orbital length	10.9	12.8-13.7
Interorbital width	26.5	28.6-30.3
Suborbital width	16.4	—

間, 1976; Kurawaka, 1977)。本間(1989)によれば、松森胤保の“両羽博物図譜”に、明治5年(1872)に最上川で採集された本種の魚拓が載せられており、下顎が突出するというウケクチウグイの特徴が併せて記されているとの事である。また、大津(1985)には、最上川産の本種と思われる写真がウグイの名で掲載されており、竹内・橋

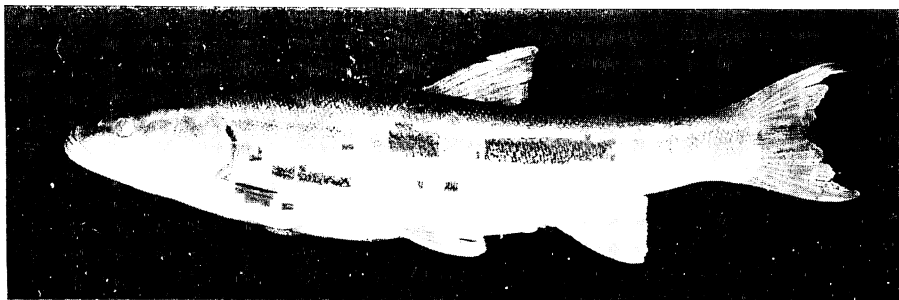


Fig. 1. "Ukekuchi-ugui", *Tribolodon* sp., from the Mogami River, Yamagata Prefecture. NSMT-P 41965, male, 403.0mm SL.

本(1990)は最上川における本種の分布の可能性を指摘している。今回得られた標本は、信濃川、阿賀野川両水系以外からの初めての正式な記録である。

標本は、1990年3月18日に、ミミズを餌にして釣獲された雄成魚1個体である(NSMT(National Science Museum, Tokyo)-P 41965, 403.0 mm SL, Fig. 1)。下顎が上顎より突出すること、頭部側線感覚管の開口数が著しく多く、前鰓蓋下顎管(preoperculummandibular canal)と眼下管後眼部(postocular commissure)とが接続しないことなど、中村(1963)に記されたウケクチウグイの特徴をよく示している。標本の計数計質と、体各部の体長比及び頭長比をTable 1に示したが、それも中村(1969)の記述によく一致した。なお、本標本の特に体前部背面には、追星がよく発達していた(Fig. 2)。それは、鱗の後半部に数個の集まりとして存在し、1-2個縦列しているウグイ *T. hakonensis* (Günther) や、微細な追星が1-3個横列しているマルタ *T. brandii* (Dybowsky) (Sato, 1935; 中村, 1969) とは顕著に異なっていた。

ウケクチウグイは、その分布の特異さから、種としての地位を疑問視されたこともあった(本間, 1976; 宮地ほか, 1976)。しかし、半沢・谷口(1982a, b)により、遺



Fig. 2. Pearl organs of "ukekuchi-ugui," *Tribolodon* sp., just before dorsal fin base.

伝学的に全く別の種であることが示された。本標本の追星の出現状態も、本種がウグイやマルタとは別種であることを示す、一つの大きな特徴であると思われる。

今回得られた標本は1個体であるが、その後、同様の特徴を示す魚を捕った事があるという情報が、いくつか寄せられており、一部は写真や魚拓でウケクチウグイであることを確認した(Fig. 3)。また、山形県西置賜郡白鷹町では、以前よりハヤ(ウグイ)と区別して本種を“ヌル”と呼び分けていたらしい。1972年の松森胤保の魚拓

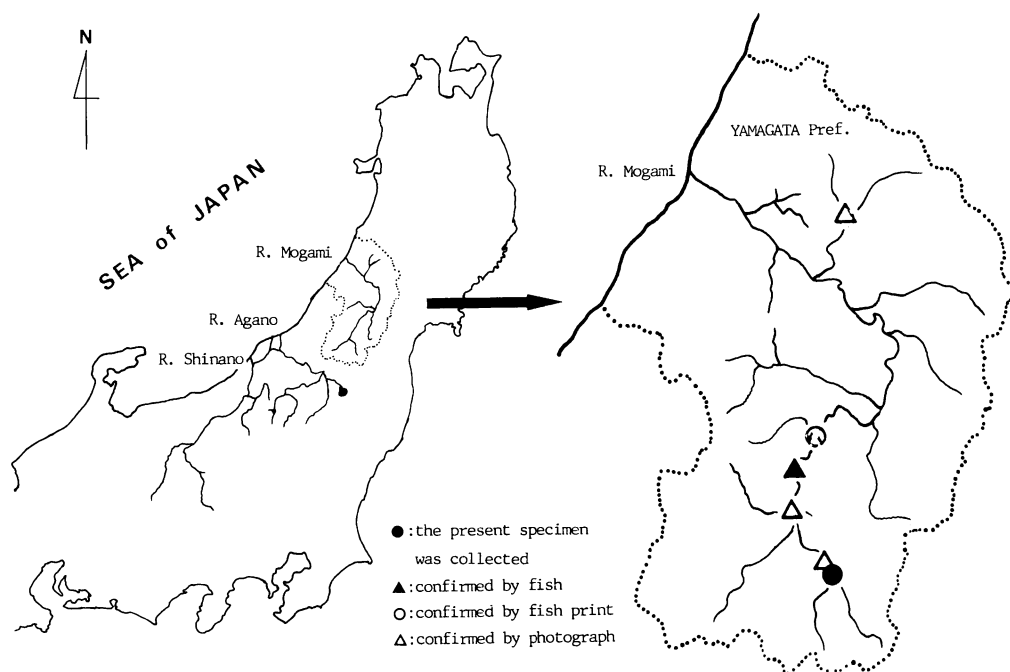


Fig. 3. Map showing the Mogami, Agano and Shinano Rivers where "ukekuchi-ugui", *Tribolodon* sp., distributed. The enlarged map of the Mogami River indicates the locations from which the specimen and information used in the present record were collected.

も考え併せ、最上川のウケクチュウグイは、例えば海を経由して阿賀野川や信濃川から偶来したものではなく、最上川に独立した繁殖個体群として存在してきたものと思われる。

本稿を終わるに当たり、原稿の校閲を賜った新潟大学の本間義治教授、情報収集にご協力いただいた山形テレビの日野理弘氏並びに山形新聞社の寒河江努氏、ウケクチュウグイ捕獲の情報を提供して下さった最上川流域にお住まいの樋口喜秋、倉田賢二、黒坂正徒、長瀬 実、志水俊道、平 敏美、竹田秋雄、梅津清二の各氏に感謝の意を表す。本研究の一部に文部省科学研究費補助金総合研究(課題番号 02304002)の援助を受けた。

追記: 秋田県由利郡大内町、子吉川河口から約 3.5 km の地点(支流芋川)で、1991 年 1 月 20 日にウケクチュウグイ雌 1 尾 (461 mm BL, 1,840 g BW) が捕獲されたとの連絡を、秋田県水産振興センターの杉山秀樹氏よりいただいた。捕獲したのは大内町在住の斎藤金一氏で、コイ刺網にかかったとのことである。

引用文献

- 半沢直人・谷口順彦. 1982a. 福島産ウグイ属魚類の遺伝的分化. 水産育種, (7): 26-30.
- 半沢直人・谷口順彦. 1982b. 筋契蛋白の等電点電気泳動によるウグイ属魚類の判別. Rep. Usa Mar. Biol. Inst., (4): 51-54.
- 本間義治. 1976. ウグイの種族分化研究事始め—阿賀野川の第二水俣病との関連において. 淡水魚, (2): 92-96.
- 本間義治. 1989. 古記録からみた頬長(未記載種ウケクチュウグイ)の分布. 新潟県生物研究会誌, (24): 49-53.
- Kurawaka, K. 1977. Cephalic lateral line systems and geographical distribution in the genus *Tribolodon* (Cyprinidae). Japan. J. Ichthyol., 24(3): 167-175.
- 宮地伝三郎・川那部浩哉・水野信彦. 1976. 原色日本淡水魚類図鑑. 全改訂新版. 保育社, 東京, 462 pp.
- 中村守純. 1963. 原色淡水魚類検索図鑑. 北隆館, 東京, 258 pp.
- 中村守純. 1969. 日本のコイ科魚類. 資源科学研究所, 東京, 455 pp.
- 小野寺 隆・本間義治. 1976. 東日本におけるウグイ属魚類の種族分化. 動物分類学会誌, (12): 65-77.
- 大津 高. 1985. 山形動物記. 山形県動物環境調査会, 山形, 280 pp.
- Sato, M. 1935. Note on the nuptial coloration and pearl organ of *Tribolodon hakonensis* (Günther). Sci. Rep. Tohoku Imp. Univ., IV Ser. Biol., 10(3): 499-514.
- 竹内 基・橋本健一. 1990. 本州東北部における淡水魚類相の生物地理学的解析. 日本生物地理学会会報, 45: 127-135.

(Received June 19, 1990; accepted October 16, 1990)